

■ 循環器内科

① スタッフ

前田裕史	副院長兼内科部長、S60 卒、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医
小原健一(4月～9月)	内科科長、H9 卒、日本循環器学会専門医
中西啓太	内科科長、H10 卒、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、指導医
羽鳥光晴	内科科長、H11 卒、日本循環器学会専門医
大谷暢史	H23 卒

② 入院患者

総数 741 名 (昨年比 +9)

(内訳)

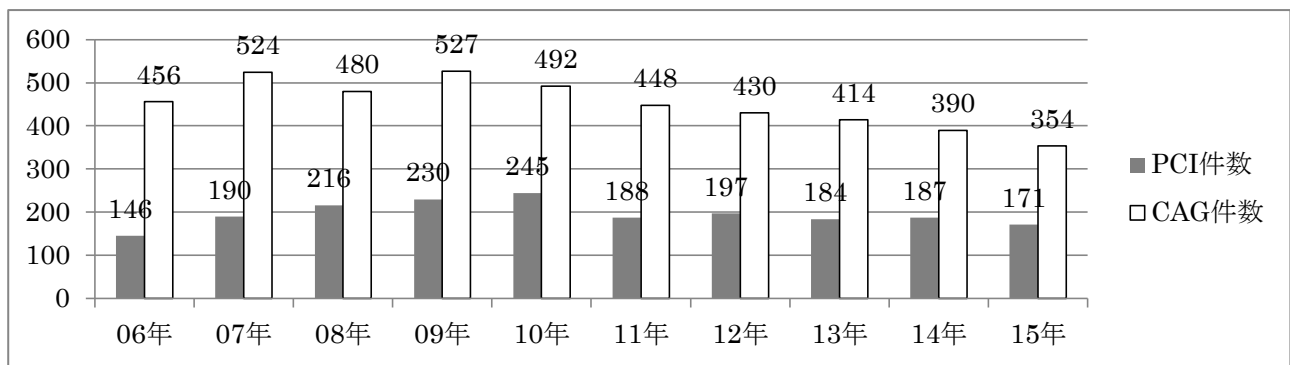
狭心症	168 名 (昨年比 +5)
急性心筋梗塞	79 名 (昨年比 +2) (院内死亡率 10%)
弁膜症	36 名
心筋症	17 名
うっ血性心不全	234 名 (昨年比 +12)
不整脈疾患	63 名
閉塞性動脈硬化症	13 名
肺炎	33 名
糖尿病	29 名
感染性心内膜炎	5 名
肺塞栓、肺高血圧	3 名
がん	6 名
老衰	12 名
その他	43 名 (脳梗塞、感染症など)

うっ血性心不全の患者様が年々多くなっています。高齢者の増加で、心不全の発症者が増えてきているのは、全国的な傾向です。

③ 心臓、血管カテーテル検査・形成術

冠動脈造影検査件数は、昨年度に引き続き減少しました。

2015 年の冠動脈インターベンション件数は 171 例で前年より減少、腎臓内科のシャント形成術を除いた末梢血管のインターベンション件数は、7 件でした。



(内訳)

冠動脈造影	354 例
右心カテーテル検査	98 例
体外式ペースメーカー(PCI 時を除く)	23 例
冠動脈形成術	171 例
末梢動脈形成術(下肢)	7 例

早期成績

冠動脈形成術初期成功率 170/171 例(99%)

不成功例の1例はガイドワイヤーやデバイスの不通過によるものでした。慢性閉塞症例のPCI例です。

合併症

Q波急性心筋梗塞	0/171 症例
緊急冠動脈バイパス術	0/171 症例
死亡	3/171 症例
急性冠閉塞(SAT)	1/171 症例
nonQ波心筋梗塞(側枝閉塞)	0/171 症例
穿刺部血腫・感染	0/171 症例

死亡の3症例はいずれも、急性心筋梗塞で、補助循環(PCPS)を用いて治療を行い、急性期に再灌流に成功しましたが、救命できませんでした。